

アスミック・エース エンタテインメント株式会社

第二の基幹系システムであるメール基盤の強化へ
透過的な活用で運用負荷の大幅軽減を実現した
クラウド型セキュリティ

【導入の経緯】

スパムの標的にされやすい公開サーバ！安定した運用環境を希求

【ご利用のサービス】

アンチスパム
アンチウイルス



アスミック・エース
エンタテインメント株式会社
コーポレート本部
GM 業務・人事担当
神保 宏 氏

映画制作や配給、劇場宣伝をはじめ、DVDパッケージの販売や配信事業など、映画関連ビジネスを中核に事業展開しているアスミック・エースエンタテインメント株式会社。ハリウッドや邦画メジャーとは一線を画した独立系の映画会社として、新人監督を起用した新しいタイプの映画やクオリティ映像を中心にしたエンタテインメント・コンテンツの提供を通じて多くの方に夢と感動を与えている。また、演劇やコンサートなどODS(Other Digital Stuff)と呼ばれる映画以外のコンテンツの上映やSNSゲーム、スマートフォン向けアプリの開発を手掛けるなど、映画の枠にとらわれない新たな価値創造にも積極的に取り組んでいる。

同社が映画の宣伝を行う際には、専用のドメインを取得してWebサイトを立ち上げるケースが多く、キャンペーンや問い合わせ用の窓口に利用するメールアドレスを一般公開している。そのため、スパムメールの標的にされやすい環境にあると語るのはコーポレート本部 GM 業務・人事担当の神保 宏氏だ。「現在、およそ百を超えるドメインを管理しており、それぞれのドメイン宛にスパムメールが送りつけられます。そこで、セキュリティアプライアンス製品を導入し、スパムメール対策を強化してきました。」しかし、ハードウェアのライフサイクルに縛られてしまうだけでなく、ビルの法定点検による停電によって生じるシステム停止からの自動復旧が難しい場面もあり、安定した運用環境を整備する必要に迫られていたという。また、膨大な数のスパムメールがすべてメールサーバに届いてしまうことで、多いときには毎日2~3時間かけて隔離フォルダを確認するケースもあったと神保氏。そこで、アプライアンスの保守が終了する時期に合わせて、新たなスパム対策のインフラを検討することになったという。

【選定ポイント】

高い信頼性と導入の簡便さが魅力！コストにも違いあり

インフラ選定に際して、まずは新たなアプライアンスの導入を検討した同社。しかし、ハードウェアであるが故の課題が解決できないため、他の方法を模索することになったと神保氏は当時を振り返る。「アプライアンスを再び導入してしまうと、ハードウェアのライフサイクルによって運用の硬直化を招くことにもなりかねません。第二の基幹系システムとも言えるメールシステムを安定稼働させるためにも、従来と同じ環境からの脱却が必要でした。」

そこで検討したのが、GAppsなどと連携させたメール環境のホスティングだった。しかし、同社のメール基盤として採用されているLotus Notes/Dominoが社内におけるナレッジベースとして活用されており、蓄積された情報量はアーカイブも含めて3TBを超えるほど。膨大な量の情報の移行と、運用の変更が現場の混乱を招く可能性があったという。

そこで有力視されたのが、クラウド型セキュリティによるスパム対策だった。クラウドサービスであれば、メールサーバに届く前に大量のスパムメールを排除することが可能で、必要なタイミングで従業員に確認させることができるようになる。管理者の負担を軽減させながらスパム対策が実現できると神保氏は判断。そこで複数のクラウドサービスを検討し、コスト面でも非常に利点のあるシマンテック ドット クラウドが同社の目に留まった。

お客様情報



【設立年月日】

1985年3月

【所在地】

東京都港区六本木6-1-24

【代表者】

代表取締役社長 豊島 雅郎

【概要】

映画制作や劇場映画の配給・宣伝をはじめ、DVDパッケージの販売や演劇、コンサートなどODS(Other Digital Stuff)と呼ばれる映画以外のコンテンツ上映、SNSゲーム、スマートフォン向けアプリの開発などを手掛ける。

また、複数層のスキャンシステム及び学習型人工知能機能も内蔵した独自のスキャン技術（Skeptic™）を採用したシマンテック ドット クラウドであれば、ウイルスやスパム検知に関する信頼性も他社に比べて高いと判断。自ドメインのMXレコードを変更するだけで運用が始められる導入の簡便さも高く評価され、同社のメールセキュリティ基盤としてシマンテック ドット クラウドが導入されることとなった。

【導入の効果・運用】

透過的な活用で管理者負担を大幅軽減！30%のコスト削減にも寄与

現在は、アカウント情報がクラウド上で管理されており、該当しないアカウント宛のメールはすべてメールサーバに届く前に削除されるようになっている。また、アカウントごとに届いたスパムメールは隔離フォルダに移され、アカウントを管理する従業員ごとに隔離されたスパムメール一覧が通知される。「隔離されたメールをリリースする際は、クラウドサービスにログインすることなくメール上で再配信処理が行えるようになっています。」

以前は隔離フォルダの確認作業に多くの時間と手間が必要だったが、現在では管理者の作業負担はほぼゼロになっていると神保氏は高く評価する。「以前はメールサーバ上の隔離フォルダに日に数千件、トータルで30万件あまりが蓄積されていたこともありましたが、今はメールサーバそのものに届くスパムメールがわずか数十件と激減しています。運用コストを大幅に削減することができました。」

なお、以前のアプライアンスサーバでの運用に比べると、現状必要な運用コストはおよそ7割程度、年間で30%程度のコスト削減に成功している。「コスト削減もさることながら、複雑なメールセキュリティの運用を意識することなく、透過的に使えていることに満足しています。以前なら、隔離フォルダを毎日確認したりハードウェアの保守を気にしたりなど、気がかりなことが多かった。今では意識することなく高度なセキュリティ環境を維持することができています。管理者からすると大変便利なサービスです。」

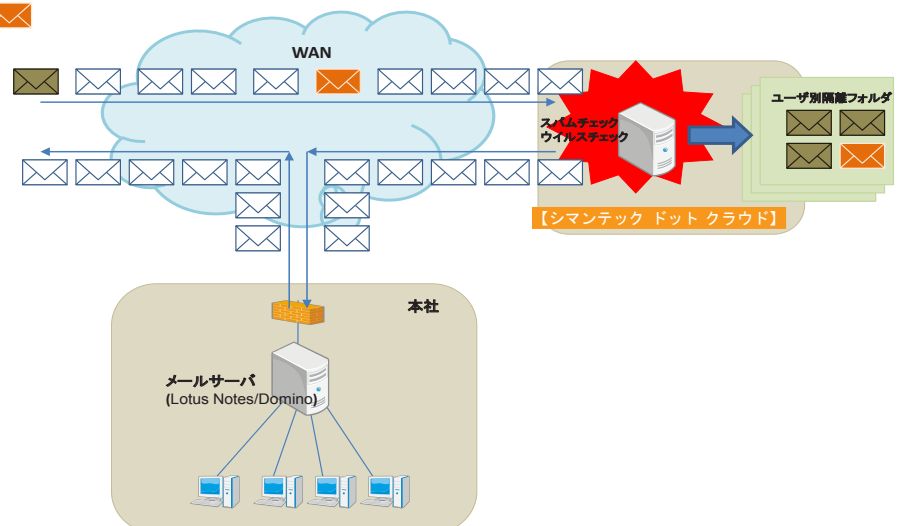
【今後の展望】

証跡管理のためのアーカイブなど更なるインフラ強化を目指す

今後については、メールの証跡管理に役立つアーカイブをはじめ、添付ファイルの暗号化などについても情報保護対策として検討したいと神保氏は語る。「親会社がIFRS対応を宣言していることもあり、いずれ収益認識時期の確認などの際にメール証跡が求められる可能性もあります。ニーズが顕在化してくれば、いずれ何らかの形でアーカイブは検討したいと考えています。」暗号化については、添付ファイルを強制的に暗号化してしまうような、従業員に負担をかけることなくセキュリティレベルを上げる方策を検討したいという。他にも、マルウェアなどから自社システムを守るためのWebアクセス管理に必要な環境もコスト次第で整えたいと今後の展望を語っていただいた。



システム構成図



【お問い合わせ先】

シマンテック ドット クラウド
メッセージラボ ジャパン株式会社

〒107-0052
東京都港区赤坂 1-1 1-4 4
赤坂インターシティ
株式会社シマンテック内
TEL 0120-47-4220
info_cloud@symantec.com
http://www.symanteccloud.jp